

研究No.  
(記載不要)

20 - デザイン - 6

## 平成 20 年度配分 研究成果の概要

研究名	金属加工室及び木材加工室の管理運営、利用環境に関する将来計画の考察				
配分を受けた特別研究費	特別研究費 470千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	デザイン学部	空間造形学科	教授	鳥居厚夫	総括 空間造形及び金工 関係
共同研究者	デザイン学部	生産造形学科	教授	田邊英隆	生産造形及び木工 関係
	デザイン学部	生産造形学科	准教授	山本一樹	生産造形及び金工 関係
	デザイン学部	メディア造形学科	准教授	佐藤聖徳	メディア造形及び木工 関係
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要			号 数	第 号 ( 年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法: 報告書			発表日 (発表 予定日)	平成21年12月18日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

本学における工房および設備が、将来にわたって大学の発展に寄与するための教育的、研究的あるいは経営的、環境およびシステムを追求し、それらがなし得る既存のデザイン大学にない将来像を作成する事を目的とする。

(研究の実施方法等)

事例として金属加工室および木材加工室を取り上げ、そこで得られた調査研究結果をもとに一般化を試みる。

1. 金属加工室および木材加工室に対しての現状分析、問題点の抽出→教職員、学生、実習指導者に対するヒヤリング、アンケート調査

2. 事例研究

文星芸術大学

東北芸術工科大学

広島市立芸術大学

愛知県立芸術大学

上記 4 大学を訪問し工房関係担当教員及び事務職員等に対してヒヤリングと工房見学を行う

(得られた成果等)

1. デザイン学科を持つ主要大学の工房運営の現状、および将来に対する考え方などを  
知ることが出来た。
2. 本学デザイン教育の中で新たな発想を生み育む創造的思考の場となるような工房環境  
の具体的なあり方を策定中。
  - ・ 機械の更新等の予算的な措置→この事を予算化する必要はない。(機械の更新サ  
イクルが20ー30年単位であり、かつ幾つかが同時期に重なる事は殆どない事によ  
る。
  - ・ 学部単位での工房管理(他大学では学科単位で管理している工房が殆どである)
    - 工房の管理形態が学部単位となっており、学科間によるセクショナリズムが働きに  
くなり、学生利用上の一つのメリットになっている。この事は工房活用を目指した  
時、重要な特徴となりえ、この特性を最大限生かした学生プロジェクト(鳥人間コン  
テストのようなもの)への参加などを積極的に取り入れていくことを検討中。(特に  
総合組み立てアトリエ東側の活用)
    - 工房の管理形態が学部単位となっていることから、工房に所属する教員、あるい  
は学生がおらず、結果として、日常的な管理者が不在となっている。この事によ  
る、学生の使用上の不便さが生じており、教員研究室の移動や施錠方法の改善  
など何らかの見直しが必要。
    - 他大学では工房の所属が学科単位であることから、工房管理費(消耗品、燃料  
費など)は学科予算の中の学生費として対処していることが多い。本学ではもう少  
し研究が必要である。
  - ・ 実習指導員のあり方についての検討→学生に対するヒヤリングなどから、実習指導  
員の学生に対するサポートが、一部個人的なものになっているや必要な時に何処に  
いるか分からないなどの批判があることが判明、今後その体制の見直しが必要との結  
論。その後、学科長会議で議題として取り上げ改善を検討中。
  - ・ 工房を利用した大学と市民とのコラボレーションの提案を検討中(事例ー広島市立  
大学の取り組み)
  - ・ 工房に放置されている作品や材料、残材、廃棄物などの処理法のシステム→検討  
中(残材バンクの設置など)
  - ・ 健康に留意した塗装場所の限定、管理法→検討中(塗装乾燥室の所在の周知徹底  
など)